

# 広島県因島市における1歳6か月児 健診の効果的実施に関する研究

篠崎英夫（広島県公衆衛生課）  
大貫道子（広島県因島保健所）  
今田寛陸（広島県精神衛生センター）

## はじめに

広島県では、昭和52年度から1.5歳児健診を開始したが、実施市町村数は少なく、本格的な実施は、昭和53年度からである。それでこの健診をいかに少ない機関、マンパワーの中で効率的に行えるかを検討するため、因島市をモデル事業地区とし、様々な角度から検討を加えた。因島市を選んだのは、広島県において、保健医療の面からみてほぼ平均的な都市であり島であることから、特殊なものを除いて医療が地区内で完結し、関係機関の協力や健診後のfollow-upもし易いと考えたからである。この健診事業を市をあげてのものとするため、既存のあらゆる保健医療関係地区組織を活用して、健診体制の確立を図り、受診前質問票、健康診査票も地域の実情を加味して作成した。

又、1.5歳児健診のfollow-upのために、健診後、母親に「病気やけがの記録」票を手渡し、3歳児健診の時持参するようにし、1.5歳児健診→3歳児健診と継続的な幼児管理体制の確立を図ることとした。

## 因島市概況

因島市は、広島県の東南部、瀬戸内海のほぼ中央に乳ぶ島で、全国でもめずらしい全島1市の都市で、周囲40.1kmの因島が主となり、面積39.16km<sup>2</sup>、人口40,266人、世帯数11,463（昭和52年12月末）である。

地勢は、比較的急峻で平地が少ない。気候は、一般に温暖で雨量が少なく、台風等による被害もほとんどなく、自然条件には恵まれている。島内の主な産業は、造船業が中心で、その他特産物の柑橘、野菜の生産も多い。

人口動態は、表1のとおりで、出生率、死亡率ともに減少傾向にあり、少産少死の社会現象が現われ、老令化社会へと進展しつつある。特に、乳児死亡率は、45年の21.4（出生1000対）から50年には13.4%と20%の改善となったものの末だ県平均を大きく上廻っている。新生児死亡率、周産期死亡率等についても年々改善されつつはあるが、依然として県平均を上廻っている。

島内の保健医療施設は、病院1、一般診療所26、歯科診療所11、R5型保健所1、母子健康センター1と比較的恵まれており、保健医療サービスは、一次的には島内で完結している。

又、保健医療従事者は、医師34名、歯科医師17名、薬剤師19名、保健婦6名、助産婦16名、看護婦117名（准看護婦を含む）である。

## 健診準備

1.5歳児健診を実施するにあたって、最も懸念されるのは、活用できる人的資源の質と量である。幸い因島市においては、50年8月に因島地区地域保健対策協議会（因島市医師会、因島病院、因島市、因島保健所、薬剤師団体が構成、以下「因島地対協」という。）及び因島地区歯科衛生連絡協議会（因島市歯科医師会、因島市、因島市教育委員会、因島病院、因島保健所で構成、以下「因島歯衛連」という。）が、それぞれ組織化され、医師会、歯科医師会、病院、市、保健所との相互連携が保たれている。又、同年3月に東生口母子愛育会、52年6月には田熊地区母子愛育会が結成され、母子保健事業推進の側面的援助を行っている。

これらの資源を有効に活用するため、昭和52年5月から11月にかけて、因島地対協、因島歯

衛連等の組織を通じて、健診の意義、健診の方法、健診事業への支援体制、健診後の follow-up 体制等について、協議、検討が重ねられた。

又、同時に小児科、精神科、歯科の専門医によって「受診前質問票」「健康診査票」の作成検討がなされた。

このような事前の協議、検討を十分重ねた結果、関係者の理解も深められ、健診体制への足固めができたのである。

### 健診項目

「事前の質問項目」「健診項目」については、昭和51年度厚生省心身障害者研究による「乳幼児健康診査と集団管理システムに関する研究」に示された「受診前質問票」と「健康診査票」(以下厚生省案の「受診前質問票、健康診査票」という。)を基に、身体系疾患、精神系疾患、歯科系疾患のそれぞれについて、専門家の意見を聞きながら、項目の整理統合を行い、新たに図1のとおり「受診前質問票」と「健康診査票」(以下広島案の「受診前質問票、健康診査票」という。)を作成した。広島案の「受診前質問票、健康診査票」では、「受診前質問票」に主眼をおき、できる限り児の状況は握ができるようにした。従って「健康診査票」の項目は、必要最小限度のものとした。

広島案の「受診前質問票」では、厚生省案の「受診前質問票、健康診査票」の各項目を整理統合し、Ⅰ、生育歴。Ⅱ、児の状態。Ⅲ、家族歴。Ⅳ、心配相談事項の4つに大別した。

「生育歴」では、出生歴、既往歴、栄養方法及び発育状況からみた身体面の異常を、「児の状態」では、精神面の異常及びう蝕状況を、「心配相談事項」では、母親の育児不安の状況をそれぞれチェックできるよう質問項目を定めた。

なお、厚生省案の「受診前質問票、健康診査票」に改変した主な項目とその理由は、図2のとおりである。

### 健診方法

健診日の14日前に、対象者にあらかじめ健診通知と「受診前質問票」を郵送しておき、受診前質問票は、健診当日に回収した。

問診の段階で保健婦が、受診前質問票を読み、記入もれチェックや必要に応じて新たな聴取りを行い、それを記入した。

特に、精神系疾患の1次スクリーニングとして、受診前質問票に重点を置き、受診前質問票の「児の状態」の項で、1つでも「いいえ」の答があった場合は、津守式「乳幼児精神発達質問紙」により検査を、又、「心配相談事項」が記入されている場合は、「MAS(不安尺度)」を施行して、2次スクリーニングを行った。

身体系疾患及び歯科系疾患については、健康診査票を用い、地元の医師、歯科医師により異常の有無及びう蝕状態等について、診察を行った。

又、2回目の未受診者に対してのみ、期日を改めて設け、母子愛育会の班員及び母子保健推進員を通じて受診勧奨を行い、健診を実施した。

### 健診体制

因島市医師会、同地对協、同歯科医師会、同歯衛連等の協力、保健所の技術援助により図3のとおり健診体制をつくった。

健診会場は、図4のとおりで、因島市母子健康センター(延面積23579㎡うち使用面積133㎡)と因島市休日急患診療所(延面積150㎡、うち使用面積74㎡)の二棟を使用した。

健診順序は、①受付、②問診、③身長、体重測定、④尿検査、⑤一般健診、⑥歯科健診、⑦総合判定、⑧保健指導であった。

①受付では、対象者の確認、健診の説明などを市職員2名、愛育班員2名の計4名が行った。②問診では、市と保健所保健婦5名があらかじめ記入された受診前質問票をチェックし、必要に応じて新たな聴取りを行い、それを記入した。③身長、体重測定は、母子愛育班員、母子保健推進員など5名が、体重については乳幼児体重計(かご付き)、身長については乳幼児身長計(ベット型)を用いて行った。④尿検査は、婦人会、愛育班員、民生委員3名の採尿協力と市保健婦1名が、「尿中ブドウ糖、蛋白質同時検査用試験紙」を用いて行った。⑤一般健診は、地元の内科医1名と看護婦1名の2名で行い、受診前質問票を参考にして、主として身体疾患の診察を行った。⑥歯科健診は、

地元歯科医1～2名と看護婦2～3名で行い、健診の他に歯垢や歯石の除去も行った。⑦総合判定は、保健所長1人で行った。⑧保健指導は、保健所保健婦、栄養士2名が、健診結果と受診結果と受診前質問票により、必要な指導を行った。

健診時間は、午後1時から5時までとしたが、1回目、2回目とも5時半頃までかかった。1人当りの所要時間は、平均45分であるが、総合判定での待ち時間に差がでたため、早い者で45分、遅い者では3時間もかかった。

### 健診結果

健診において「受診前質問票」「健康診査票」は、1回目は厚生省案のものを、2回目は広島案のものをそれぞれ使用した。その結果は表3のとおりで、1回目は対象者50名、受診者39名（受診率78%）で、何んらかの異常がみられたのは、身体系疾患8件（漏斗胸1、先天性股関節脱臼1、血管腫3、発育遅滞1、斜頸の疑1、湿疹1）、精神系疾患0件、歯科系疾患17件（う歯8、反対咬合、不正咬合2、白斑1、着色1など）であった。このうち総合判定で要指導としたものは14名（育児指導3、栄養指導8、受診勧奨3）で全体の35.8%であった。2回目は対象者58名、受診者51名（受診率87.9%）で、異常のみられたのは、身体系疾患4件（漏斗胸1、脳性マヒ1、湿疹1、発育遅滞1）、精神系疾患2件（自閉傾向1、言語不明瞭1）、歯科系疾患35件（反対咬合、不正咬合10、歯例不正2、開咬1、着色3、白斑2、形成不全1、歯肉炎、口内炎5、萌出遅延の疑1、円柱歯・巾合歯2、う歯8）であった。このうち総合判定で要指導としたのは、14名（育児指導2、栄養指導8、受診勧奨4）で全体の27.5%であった。

又、2回目の健診の未受診者7名については、別に健診日を設けて健診を実施したところ、異常のみられたのは、身体系疾患5件（血管腫1、尿蛋白(+)2、要蟻虫検査1、大泉門未閉鎖1）、精神神経疾患0、歯科系疾患0であった。このうち総合判定で要指導としたのは4件（育児指導1、受診勧奨3）であった。

う歯数については、表4のとおりで、既にう歯

が6本7本10本と多数あるものもあった。「よく飲んでる飲物」からみると患児数16名のうち14名（87.5%）が「糖、乳酸菌飲料」を飲用しており、「牛乳、お茶など」を飲用の者では、2名（12.5%）であった。又、表6の「間食時間」からみると、う歯罹患児16名のうち10名（62.5%）が、時間を決めずと与え、時間を決めていいるのは、6名（37.5%）にすぎなかった。

健診受診児の既往歴及び治療中の病気は、表7のとおりで、既往歴のない72名（74.2%）（肺炎6、麻疹11、水痘3、下痢3、その他6）、治療中の病気のない89名（91.8%）、治療中の病気がある8名（8.2%）（感冒6、脳性マヒ1、先天性股関節脱臼1、嘔吐1）であった。

妊娠前期及び周産期の状況は、表8のとおりで、「妊娠期」には、貧血18、尿糖12、早産4、切迫流産3などがあり、「分娩時」には、吸引分娩11、微弱陣痛9、胎盤圧出法6、早期破水3などがあり、「出生時」には、臍帯てん絡3、黄疸2、仮死1などがあった。さらに健診時にみつけられた身体系疾患とこの時間の状況との関連は、表9のとおりで、身体系に異常のあった児の母親15名のうち妊娠期を通じて何んらかの異常が認められたのは12名（80%）であった。

栄養方法を時期別にみると表10のとおりで、健診2回目の受診者58名中、生後2週間までの栄養方法をみると26名（44.8%）が母乳を、25名（43.1%）が混合栄養を、7名（12.1%）が人工栄養となっており、月齢が進むに従って、母乳、混合、人工の割合が変化し、人工栄養が漸増している。栄養法と健診時みつけた疾患との関連は明らかにすることはできなかった。

### まとめと問題点

2回の健診を通じて判明したことは、1.5歳児健診に対する住民の関心はかなり高いことで、それは初年度事業にもかかわらず高率の受診率を示したことで明らかである。

以下、今後の課題も含め問題点を列挙する。

- 1 健診票の項目を簡略にし、あらかじめ郵送して母親に記入させる受診前質問票の項目を増やしたが、未記入のものも少なく、問題

はなかった。

- 2 精神系疾患の診断は、短い健診時間では困難とみられたので、主たる項目を受診前質問票に移し、問題のありそうな事例について、乳幼児精神発達質問紙（津守真，稲毛教子—大日本図書株）により、2次チェックを行うこととした。
- 3 尿検査は、健診会場で排尿させるのに母親が手間どり、結局採尿できないものもいた。事前に採尿し、持参させる等の工夫が必要である。
- 4 身長、体重測定は、衣服を脱がせて測るため、子供が最も嫌がるところで、大変な労力を要した。
- 5 子供がよく泣くのは、身長、体重測定と歯科健診のところであるので、問診会場は、こ

れらと切り離れたところにする必要がある。

- 6 受付開始時刻を同一時刻にしたため、健診の流れに渋滞が起り、受診者によって大きな差がでた。30分間隔位の時間差を設けて、健診時刻を通知する方法も考えられる。
- 7 健診会場での感染（インフルエンザ流行時等）や事故（ストーブによる火傷等）を防ぐための対策も考慮する必要がある。
- 8 未受診者の中に高率に問題のあると思われる児がいたことから、受診勧奨の徹底を図る必要がある。
- 9 1.5歳児健診を継続的なものとするため図5のとおり「病気やけがの記録」票を作成し、これを因島地对協、因島歯衛連の協力のもとに活用し、次回健診の時母親に持参させることとした。

表 1 因島市人口動態

年	人口 (人)	出生率 (人口千対)	出生のうち 低体重児の 占める割合	死亡率 (人口千対)	乳児死亡率 (出生千対)	乳児死亡率 (出生千対)	新生児死亡率 (出生千対)	周産期死亡率		死亡		自然 (出生千対)	産 人 (出生千対)
								率 (出生千対)	後期死産 (出生千対)	早期死産 (出生千対)	率 (出生千対)		
45	41,729	17.9 (18.3)	7.2 (6.6)	7.6 (7.6)	21.4 (13.6)	10.7 (8.7)	21.4 (21.8)	13.4 (15.8)	8.0 (6.8)	4.48 (65.3)	39.7 (45.4)	5.1 (19.9)	
50	41,685	16.5 (17.7)	5.1 (5.7)	7.7 (6.8)	17.4 (9.9)	11.6 (6.7)	20.3 (15.9)	10.2 (10.9)	10.2 (5.0)	22.7 (52.0)	19.9 (37.2)	2.8 (14.8)	

(注) ( )内は、県平均

表 2 健診結果および指導区分 (健診1回目, 2回目)

結果及指導 区分	対象者数		受診者数		健診結果		健康結果に基づく指導区分						
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数					
									異常者数 (人)	対象者数 (人)	体 件数	精神 件数	歯 件数
1 回目	50	39	16	23	7	8	0	0	17	17	3	8	3
2 回目	58	58(7)	23(3)	35(4)	8(4)	9(5)	2	2	25	35	3(1)	8	7(3)
合計	108	97	39	58	15	17	2	2	42	52	6	16	10

注. ( )内は未受診者

表3 異常の内容(健診1回目, 2回目)

異常 健診	身 体 (件)										精 神 (件)		歯 科 (件)												
	漏 斗 胸	先 天 性 股 関 節 脱 臼	血 管 腫 腫	発 育 遅 滞	濕 疹	斜 視 の 疑	脳 性 マ と	尿 蛋 白 (+)	鏡 虫 要 検 査	大 泉 内 未 閉 鎖	計	自 閉 傾 向	言 語 不 明 瞭	計	反 対 咬 合、不 正 咬 合	歯 列 不 正	開 咬	着 色 斑	白 斑	形 成 不 全	歯 肉 炎、口 内 炎	萌 出 遅 延 の 疑	円 柱 歯、巾 合 歯	指 し や ぶ り	計
1 回 目	1	1	3	1	1	1				8				2	1		1	1					4	8	17
2 回 目	1		(1)	1	1	1	(2)	(1)	(1)	9	1	1	2	10	2	1	3	2	1	5	1	2		8	35
合 計	2	1	4	2	2	1	2	1	1	17	1	1	2	12	3	1	4	3	1	5	1	2	4	16	52

注.( )内は未受診者

表4 う 歯 数 (健診1回目, 2回目)

う 歯 本 数 健 診 時	1 本	2 本	3 本	4 本	5 本	6 本	7 本	8 本	9 本	10 本	計
	1 回 目	1人	1人	1人	3人	人	1人	人	人	人	1人
2 回 目	1	3		3		1					8
合 計	2	4	1	6		1	1			1	16

表5 よく飲んでいる飲物の内訳（健診1回目，2回目）

種類 \ 内訳	受診者数	受診者数のうち 歯罹患患者数
糖，乳酸菌飲料	69 ( 71.1)	14 ( 87.5)
牛乳，お茶など	24 ( 24.8)	2 ( 12.5)
不明	4 ( 4.1)	0
合計	97 (100.0)	16 (100.0)

注. ( )内は構成比

表6 間食時間（健診1回目，2回目）

種類 \ 内訳	受診者数	受診者数のうち 歯罹患患者数
時間を決めている	42 ( 43.3)	6 ( 37.5)
時間は決めていない	53 ( 54.7)	10 ( 62.5)
不明	2 ( 2.0)	0
合計	97 (100.0)	16 (100.0)

注. ( )内は構成比

表7 既往歴及び治療中の病気（健診1回目，2回目）

区分	なし		あり														計	
	(実人員)	(実人員)	肺炎	麻疹	風疹	水痘	下痢	中耳炎	流行性耳下腺炎	口内炎	多指症	扁桃腺炎	風冒	脳性マヒ	先天性股関節脱臼	右手首骨折		嘔吐
既往歴	72 (74.2)	25 (25.8)	6	11	6	3	3	1	1	1	1	1				1		35
治療中の病気	89 (91.8)	8 (8.2)											6	1	1		1	9

表8 妊娠前期から周産期の状況（健診1回目，2回目）

妊 娠 期		分 娩 時		出 生 時	
妊娠中毒症	22	吸引分娩	11	臍帯てん絡	3
尿糖 (+)	12	微弱陣痛	9	黄疸	2
貧血 (+)	18	胎盤圧出法	6	仮死	1
切迫流産	3	廻せん異常	2	保育器収容 (蘇生器, 酸素吸入)	1
早産	4	早期破水, 前期破水	3		
腎盂炎	1	帝王切開	1		
低血圧	1	胎盤早期はくり	1		
妊娠腎	2	子宮口硬靭症	1		
合 計	63(件)	合 計	34(件)	合 計	7(件)

表9 異常のみられた児の妊娠前期及び周産期の状況（健診1回目，2回目）

異常の内訳	妊娠前期から 周産期	正 常 (人)	異 常		
			妊 娠 期(件)	分 娩 時	出 生 時
漏 斗 胸	2(件)	2			
先天性股関節脱臼	1	1			
血 管 腫	4		妊娠中毒症 2	前期破水 1, 微弱陣痛 1	
発 育 遅 滞	2		貧血 1		臍帯てん絡 1
湿 疹	2		尿糖(+) <sup>2</sup>	前早期破水 1	黄疸 1
斜 頸 の 疑	1		早産 1	吸引分娩 1, 胎盤圧出法 1	臍帯てん絡 1
脳 性 マ ヒ	1		妊娠中毒症 1	廻せん異常 1, 胎盤圧出法 1 吸引分娩 1, 子宮口硬靭症 1	
尿 蛋 白 (+)	2		尿糖 1 妊娠中毒症 1		
蟯 虫 要 検 査	1		貧血 1	吸引分娩 1	
大 泉 門 未 閉 鎖	1		妊娠中毒症 1		
計 (実人員)	17 件	3 人	12 人		

表10 時期別にみた栄養方法（健診2回目のみ）

時期	栄養方法	母 乳	混 合	人 工	計
生 後 ~ 2 週 間 まで		26 (44.8)人	25 (43.1)人	7 (12.1)人	58 (100.0)人
2 週 間 ~ 1 か 月 まで		24 (41.4)	24 (41.4)	10 (17.2)	58 (100.0)
1 か 月 ~ 3 か 月 まで		19 (32.8)	18 (31.0)	21 (36.2)	58 (100.0)

(注) ( )内は構成比

図1 広島案「受診前質問票・健康診査票」

1歳6か月児健康診査のお知らせ

あなたのお子さんがどのように成長しておられるか、つぎのとおり診査を行います。  
つぎの質問をあらかじめ記入してきてください。

とき 昭和 年 月 日 時から 時まで  
ところ 持ってくるもの：母子健康手帳とこの質問票

受診前質問票

子どものなまえ	男・女	住 所
生 年 月 日	昭和 年 月 日生	保護者氏名 職業

I お子さんの生育歴を母子健康手帳を見ながらあてはまるものを○でかこみ( )内に記入してください。

1. 生まれた頃 のようす	(1) 妊娠中の異常は (2) お産の時の異常は (3) 生まれた時の赤ちゃんの異常は (4) 生まれた時の赤ちゃんの体重は (5) 妊娠何週で生まれましたか	なし あり( ) なし あり( ) なし あり( ) ( ) ( )																									
2. 病 気	(6) いままでにかかった伝染病は (7) いままでにかかった病気は (8) つぎのようなことがありますか	なし あり (はしか、三日ばしか、水ぼうそう おたふくかぜ、百日咳、その他( )) なし あり( ) なし あり アひきつけたことがある (高熱のため 回 その他のため 回)  イ下痢をしやすい ウよく熱を出す エかぜをひきやすい オかぜをひくとぜいぜいがとれにくい カかぶれやすい																									
3. 栄 養	(9) 栄養方法は (各時期の該当部分に○印をして ください)	<table border="1"> <tr> <td>生後</td> <td>～ 1週間まで</td> <td>母 乳</td> <td>混 合</td> <td>人 工</td> </tr> <tr> <td>1週間</td> <td>～ 2週間まで</td> <td>母 乳</td> <td>混 合</td> <td>人 工</td> </tr> <tr> <td>2週間</td> <td>～ 1か月まで</td> <td>母 乳</td> <td>混 合</td> <td>人 工</td> </tr> <tr> <td>1か月</td> <td>～ 2か月まで</td> <td>母 乳</td> <td>混 合</td> <td>人 工</td> </tr> <tr> <td>2か月</td> <td>～ 3か月まで</td> <td>母 乳</td> <td>混 合</td> <td>人 工</td> </tr> </table>	生後	～ 1週間まで	母 乳	混 合	人 工	1週間	～ 2週間まで	母 乳	混 合	人 工	2週間	～ 1か月まで	母 乳	混 合	人 工	1か月	～ 2か月まで	母 乳	混 合	人 工	2か月	～ 3か月まで	母 乳	混 合	人 工
生後	～ 1週間まで	母 乳	混 合	人 工																							
1週間	～ 2週間まで	母 乳	混 合	人 工																							
2週間	～ 1か月まで	母 乳	混 合	人 工																							
1か月	～ 2か月まで	母 乳	混 合	人 工																							
2か月	～ 3か月まで	母 乳	混 合	人 工																							
4. 発 育	(10) 首のすわり (11) 一人すわり (12) ことばのいいはじめ (13) 一人歩き	生 後 月 ごろ 生 後 月 ごろ 生 後 月 ごろ 生 後 月 ごろ																									
5. 育児相談	(14) いままで、お医者さん、保健婦 さん、助産婦さんに健診や育児指 導を受けたことがありますか。	なし、あり 生後 月 受けた注意事項( ) 生後 月 " ( ) 生後 月 " ( ) 生後 月 " ( )																									

II お子さんの今の状態についてあてはまるものを○でかこみ)内に具体的に記入してください。

6. 運動機能	05 よく歩きますか。	はい	いいえ
	06 手を引いて階段を上りますか。	はい	いいえ
7. 操作機能	07 つみきを2つ3つ積み重ねますか。	はい	いいえ
	08 鉛筆をもってなぐり書きをしますか。	はい	いいえ
8. 社会性	09 父母のしぐさのまねをしますか。	はい	いいえ
	20 おもちゃで遊びますか。	はい	いいえ
9. 習慣	21 スプーンを使ってひとりで食べますか。	はい	いいえ
	22 おしっこをしたあと(又は前に)知らせますか。	はい	いいえ
10. 言語	23 絵本を見て知っているものを言ったり指さしたりしますか。	はい	いいえ
	24 名前を呼ぶとふりむきますか。	はい	いいえ
11. 育児上の問題	25 かんが強く、ぐずりますか。	はい	いいえ
	26 周囲の人に無関心ですか。	はい	いいえ
	27 困った又はがんこなくせがありますか。	はい	いいえ
12. 歯科	28 よく飲んでいる飲物は何ですか。	( )	( )
	29 哺乳ビンを使用していますか。	はい	いいえ
	30 おやつは時間を決めて与えていますか。	はい	いいえ
	31 夕食のあとおやつをよく食べますか。	はい	いいえ
	32 おやつは主にどんなものを与えていますか。	( )	( )
	33 指しゃぶりをしますか。	はい	いいえ
	34 お子さんに歯ブラシを使っていますか。	はい	いいえ

III 家族のみなさんの状況を書いてください。

13. おとうさんについて	( )歳	(ア 健康 イ 病気)
14. おかあさんについて	( )歳	(ア 健康 イ 病気)
15. きょうだいについて	( )人	{ このうち病気の人は誰ですか。
16. その他の家族について	( )人	
17. 主な養育者は	昼間( )	夜間( )

IV 何か相談したいことや、心配があれば書いてください。

1歳6か月児健康診査票(一般)

診査年月日 昭和 年 月 日  
医師名

子どものなまえ	男・女	生年月日	昭和	年	月	日生
住 所	保護者名					

1. 生下時体重	g	2. 現在治療中の病気の有無	なし あり ( )			
3. 予防接種	二種混合 (完 未完 未)	ポリオ ( 済 未 )				
	三種混合 ツベルクリン(+ 土 -)	B C G ( 済 未 )				
4. 発 育	身長	cm (+2.+1.0.-1.-2.)	体重	kg (+2.+1.0.-1.-2.)		
	頭 囲	cm				
5. 診 察	(1) 筋 骨	強壯 普通 薄弱				
	(2) 形 態 異 常	なし あり	{ 大頭 小頭 顔つき 胸部 そけいヘルニア 四肢 その他 湿疹 血管腫 あざ 青白い その他             }			
	(3) 皮 膚 の 異 常	なし あり				
	(4) 胸 部 聴 診	異常なし 異常あり	( )			
	(5) 腹 部 の 異 常	なし あり	( )			
	(6) 心 雑 音	なし あり	( )			
	(7) 眼 の 疾 病	なし あり	( )			
	(8) 耳 鼻 咽 の 疾 病	なし あり	( )			
	(9) 神 経 学 的 所 見 及び運動機能	異常なし 異常あり	( )			
	(10) そ の 他 の 所 見		( )			
6. 検 査	検尿(たん白 - 土 + 卍)		糖 - 土 + 卍			
7. 判 定	(1) 健 康 (2) 問題あり ( )					
8. 指 導 区 分	(1) 助 言 指 導	(2) 追 跡 観 察	(3) 精 検 ( 紹 介 )	(4) 要 治 療		

1歳6か月児健康診査票（歯科）

診査年月日 昭和 年 月 日  
医師名

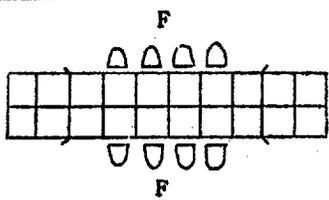
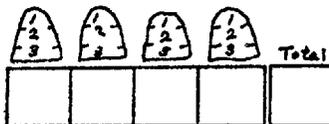
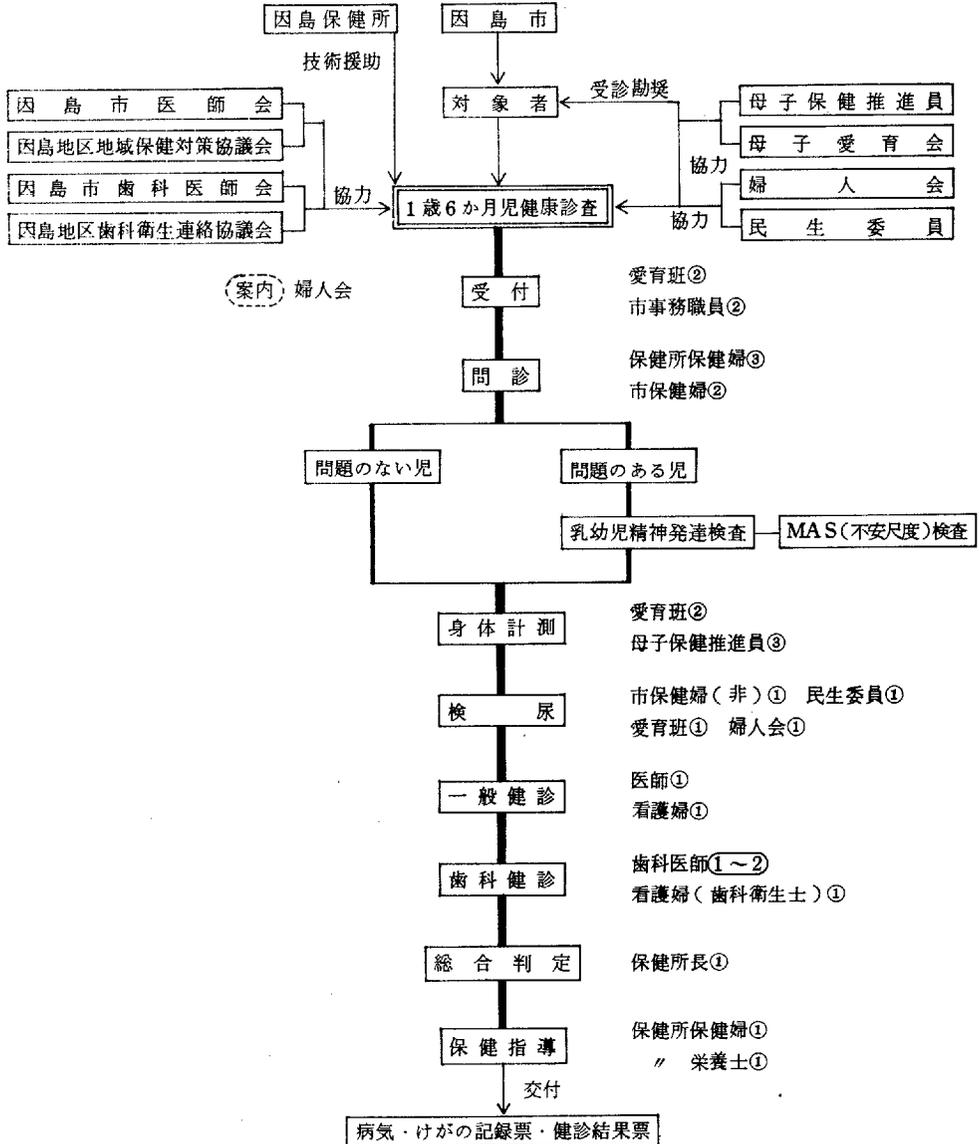
1. 歯の汚れ	きれい	ふつう	きたない
2. う蝕罹患型	O <sub>1</sub>	O <sub>2</sub>	A B C
3. 歯の状態	 <p style="text-align: right;">記号 前出歯 I 未萌出歯 空白 乳歯 O う歯 C<sub>1</sub> (C<sub>1</sub> ~ C<sub>2</sub>) Ch (C<sub>3</sub> ~ C<sub>4</sub>)</p>		
4. 歯の異常	(1) 着色	なし	あり (部位 )
	(2) 白斑	なし	あり (部位 )
	(3) 形成不全	なし	あり (部位 )
	(4) 萌出遅延の疑い	なし	あり (部位 )
5. 生歯・う歯数	生歯	本	う歯 本
6. 歯肉炎	なし	あり (部位 )	
7. その他軟組織の異常	なし	あり (部位 ) (症状 )	
8. その他の異常	(1) 咬合異常 ( )		
	(2) 歯列不正 ( )		
	(3) その他 ( )		
9. ブラークスコア			
10. 判定	(1) 健康	(2) 問題あり	
11. 指導区分	(1) 要清掃	(2) 精検 (紹介)	(3) 要治療

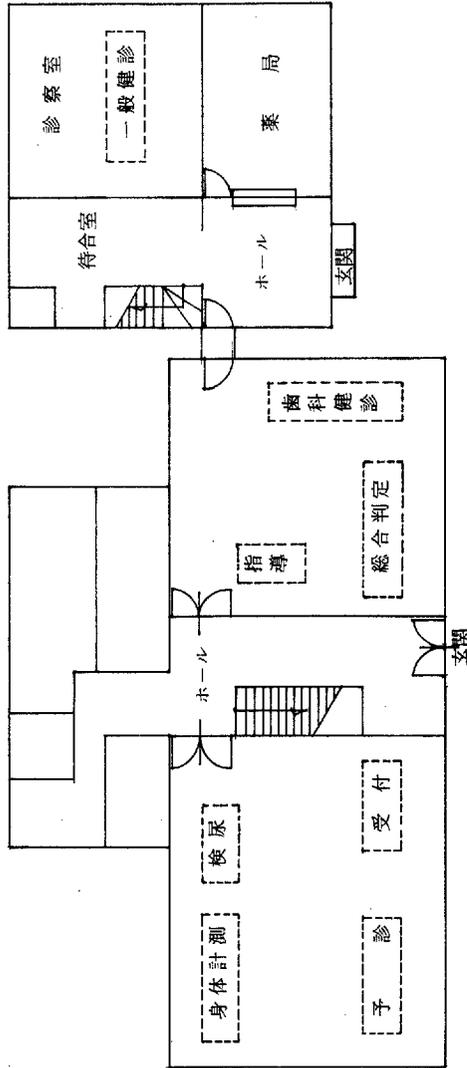


図3 因島市における1歳6か月児健康診査体制



(注) ○内は従事者数

図4 健診会場



母子健康センター 休日急患診療所



↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

はじめに

広島県では、昭和52年度から1.5歳児健診を開始したが、実施市町村数は少なく、本格的な実施は、昭和53年度からである。それでこの健診をいかに少ない機関、マンパワーの中で効率的に行えるかを検討するため、因島市をモデル事業地区とし、様々な角度から検討を加えた。因島市を選んだのは、広島県において、保健医療の面からみてほぼ平均的な都市であり島であることから、特殊なものを除いて医療が地区内で完結し、関係機関の協力や健診後の follow-up もし易いと考えたからである。